

廣益俗說辨八

僧道人物
神遺近世

13

954

9

廣益俗說辨卷十五目錄

僧道

- 一 百濟の僧日羅来朝の說
 - 二 片岡の飢人と達磨との說
 - 三 行基菩薩と卯生との說 小補
 - 新 新羅の僧及び新羅と鑑と教との說
 - 四 弘法大師檢德院守教僧の說 訂補
 - 五 素雅阿闍梨と東葉子代との說と孫との說
 - 六 柳本紀傳の心齋深居后代の說 訂補
- 元昉僧正還亡代相の說 補

伊門
954
卷9

七 志賀寺上人 多振所息 亦少達 後代に
八 慧公 傍教寂 亦少胸 蓮華と生る
九 西法師 普賢菩薩と名する

廣益俗説辨卷十五

井澤長秀

輯録

僧道

一百 濟う僧 日羅末胡乃

俗況云 日羅ハ百濟ハ僧方と云 末胡ハ一と覺徳太子
乃師と方俗

今按 あり日本紀云 敏達天皇十二年秋七月丁

酉乃詔ふく我先考天皇乃世ハ領する事此

任那國城新羅乃る小威さる先考天皇任那を

よりかへさんて城さるる終る人ともさるる

崩し終るう城のて腰さるるうて城めく

日羅等去使の思傳此屯倉にいまり一以朝廷
 大伴糠子連とけりし一而之先芳終又之更
 等と難波の館よりしりし日羅とてしりし
 けりし日羅被甲するふ家門をり下しりし
 廳前に出て進み退き跪きてしりし檢限官
 御寓天皇^{天皇}の世に我君大伴令村大連西
 家より先に海代表につくしりし^ア芦小西造刑部
 韋部阿利斯^アをりし^{フミ}近奉日羅天皇に臣す
 て來朝するやそし甲とてけり天皇に奉子別
 館成阿斗素市に營とて日羅と使しりし^ア

日官物部^サ贊子連大伴糠子連とけりし^{フミ}て西
 の政と日羅よりし^ミ先給日羅よりし^ミていし
 天皇乃天下と治めしをせし人なはる^ミ黎民
 と使しりし^ミ人そす^ミや^ミに^ミ我
 けりし人^ミや^ミ給^ミを^ミく^ミハ^ミ列^ミは^ミ百姓^ミ饒^ミ富^ミす^ミ事^ミ
 之^ミ年^ミお^ミて^ミ食^ミと^ミ是^ミ一^ミ使^ミ民^ミと^ミり
 こ^ミう^ミ災^ミと^ミ水^ミ火^ミと^ミけ^ミり^ミて^ミね^ミが^ミく^ミ西^ミ乃^ミ羅^ミ
 然^ミう^ミ進^ミへ^ミび^ミし^ミ船^ミ成^ミ松^ミは^ミけ^ミり^ミ海^ミと^ミり
 秘^ミ客^ミは^ミ見^ミと^ミけ^ミり^ミし^ミ使^ミと^ミけ^ミり^ミ
 百^ミ洲^ミと^ミし^ミ事^ミと^ミし^ミ子^ミと^ミ呼^ミぶ^ミ

宋應節よすんて得るもわつて候
にわつて候もあつて候は政事とあつて帝
いふとと一言す句浮屠の事にあつて
既戸皇子にわつて候は是とあつて信
誤候とあつて

二片是飢人と達磨と云候

信院と聖徳太子片是にわつて候は達磨にわつて候
或云日本紀は推古帝二十一年既戸皇子片是
にわつて候と此飢者なるにわつて候は
多しとあつて候は是とあつて候は

一先ず人に飢者誤候と云候は拾遺集
に聖徳太子片是にわつて候は人なるにわつて候
由飢と人通るにわつて候は是とあつて候は
書にわつて候は人なるにわつて候は達磨と云候
は是とあつて候は是とあつて候は是とあつて候は
達と云候は是とあつて候は是とあつて候は
浮屠の事加此飢人と達磨と云候は是とあつて候は
是とあつて候は是とあつて候は是とあつて候は
と号し一割信録に載て候は是とあつて候は是とあつて候は

羅山文集 勝解難源
非社考

正史實錄より見ては草薙劔の道ありゆと
めれ後志より禁裏よりわたり日本紀云朱鳥元
年六月戊寅天皇武天皇病祟草薙劔即日送置
干尾張國藝田社とわたりて考へ

四弘法大師驗德附 守敏僧都の說

俗說云弘法大師の奇妙なる驗德よりわたりて水が
地より水とわたりて陸より山中小堀とわたりて井と穿
水伐毛とわたりてわたりて水と封してわたりて火と
とびとひて水と湯と水乃ち伐毛とひて火と消
美言秘密の肝要とわたりて九字とわたりて惡魔と逐

け災穢儀よりぬと俗人け九字とわたりて火とぬとわ
てき地よりぬとわたりて又守敏僧都とわたりて火とぬと
伐毛とわたりてわたりてとわたりて

今按ふるは妄說なり趣いて奇怪不思議とい
一を佛の佛のわたりて火とぬとわたりて火とぬと
て幻術のわたりて西域よりわたりて漢より武帝は此
に中國の流布も前漢書張騫傳云大鳥卵
及犂靬人獻於漢註曰犂靬讀與幻同即今香
術是也童蒙婦女乃月氏藥也といひて西
者と依するところを唐太宗帝は貞觀十

乃よわくふとく一又九字も佛々よわく
 枹朴子云、入山誼知六甲秘祝祝曰臨兵闘者皆
 陣列前行凡九字常密祝之無所不避要道不煩
 此之謂也居家必用云門無先畫四今世よまづ
 字ハ行字と除さ前字乃よ在乃字代加（少）必
 早のふれぬと祈るやすといふをわやまらたり
 まて雲ハ人表らるる早とあけら百穀のき先
 ふい乃ふと云君人乃其身と云くくくわ
 やも他紙謝一政一乃くくく民獄とくくく

氣室紫花の婦謁さるる多う菟道乃の
 史傳より云六事代乃人童男女八人と集しめ
 て雲乃是中華天子乃雲あり我朝皇極帝
 乃雲乃大槩乃終よ似き補日本紀云皇極
 帝二年八月甲申
 朔日天皇幸南淵向上海拜四方仰天而祈即大雨
 五日聞天下百姓俱稱萬歲曰至德天皇
 云ふと僧徒至現米強とびさるるきめふれ
 みわつる氷氷後たききかふ不従乃よ紙
 かして神明何々感格わらんや又ち敏と
 いれつるも事仍なり慈悲ふ教と云くく
 魚死傷のいふ不和おれハとて我よとくく

信く初て此の如く事やハ有るに云ふハ初て其
非の如く禮とてけとて人々納受て佛神佛わん
や乞ふれ初とてくや空海と稱まんとして其作
を心とれたり空海とて一其わは額とわのめ
てらる初とてけとて人々納受て佛神佛わん
此段訂補

五 真雅阿闍梨在尔業平狀見て泳飲り悦
信況云まの雅阿闍梨ハ空海弟たり在尔業平少年
少て曼陀羅丸といひて其たれ初とて人々納受て
佛とて山名といふはく一其の心とてわれあふまのめ
てらる初とてけとて人々納受て佛神佛わん

今按る初て玉傳深秘抄に在尔業平十四歳
てまの雅阿闍梨に云ふて密法紙書ハ初とて
泳飲り悦云まの奥旨ありて人々納受て佛とて
まのまの雅と業平男色ハ睡ありけりハたを
わたりん初とてまの雅阿闍梨の但一右の初ハまの雅
初とて初今昔物語小世継十訓おふた大長
春尔業平二十と七歳初とて初乃の初とて叔父大納
言西行六十餘初とて初乃の初とて叔父大納
棟梁初とて初乃の初とて叔父大納
又初とて初乃の初とて叔父大納

わあゝとあはれを公候うよと次と夢て時平より我
 うとてひそんでをさうら大納言の伴あゆまて
 終日わきひききしゆもあて久しく北被書
 然うとてひ車にのりて出ぬ西院おけさるれとて
 世のきとえとてかりて、他ふあひおふれを
 乃山若若は——
 一書よはものごとくいふいふは
 一説よはいふいふは平久文書ハ
 平仲とてふふてて西院書
 和後和歌あはれかた文と就うと何あはれ考ふあは——
 六柳お純傳正の重深屋后と悩む候
 信伝云柳お美深傳正ハ紀三園うまなりあふ世に純傳

正とてし深屋后と見て深屋の公候候——病とて
 ちとてふ死とてを靈辨とて鬼とていふて后候をたま
 以一説よハ天物とてあつてを山とて尋ねられ
 今按ふに美深ハ弘法大師の才なり鬼とてあ
 天物とてなりあつてはよわうハ補二代實録云貞
 觀二年二月廿五日丙午僧正傳燈大法師位真
 濟卒六十一真濟俗姓紀朝臣左京人也祖正五
 位下由長父正六位上御園真濟少年學大乘道
 兼通外傳夙有識悟從大僧都空海受真言教授
 兩部大法為傳法阿闍梨時年五入愛護山高尾峯

慶子よりすくし小御息所より代わられた御筆
乃月より御筆より代わられた御筆より
まはし御筆のまはし御筆より代わられた御筆
く御筆より代わられた御筆

今按ふと、系極所息所ハ大系圖と考ふと、
系極所息所ハ四女慶子より百人一育お小慶子
多帝小親よりて雅明親と親明親よりて、
其子親元良親よりて御息所より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆

乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆
乃月より代わられた御筆より代わられた御筆

八慧心僧都寂^シふと地胸^{チキョウ}より蓮華^{レンゲ}と生^ナる一^{ヒト}流^{リウ}
俗^{ソク}流^{リウ}云^クと云^ク公^{コウ}傍^{ホウ}紅^{コウ}權^{ケン}川^{セン}ゆて寂^シせしに胸^{キョウ}れりる青^{セイ}
蓮華^{レンゲ}生^ナる一^{ヒト}流^{リウ}

今^{イマ}按^{アツ}るよ本草^{ホウソウ}綱目^{コウモク}李^リ時^ジ珍^{チン}う流^{リウ}よ牛^ウ黄^{ワウ}物^{モノ}の
寶^{ホウ}馬^マの墨^{ボク}康^{コウ}乃^ノ玉^{ギョク}犀^{セイ}此^{コノ}通^{ツウ}天^{テン}獸^{ジュ}の鄭^{テイ}答^{トウ}皆^{ミナ}物^{モノ}此^{コノ}
病^{ヤミ}ゆて人^{ニヒト}の心^{ココロ}て寶^{ホウ}と次^{ツギ}人^{ニヒト}靈^{レイ}ゆてふ^ハふ^ハ紙^シ
け病^{ヤミ}とふぬ^ハ統^{トウ}と呪^{イハヒ}や禽^{キン}獸^{ジュ}とや人^{ニヒト}を淋^{リン}とや
ゆふに沙^{シャ}石^{セキ}ちれ^ハ獸^{ジュ}の鄭^{テイ}答^{トウ}ゆ^ハ次^{ツギ}や人^{ニヒト}を癰^{オン}
敗^{サイ}や^ハ多^タふ^ハふ^ハ此^{コノ}金^{キン}石^{セキ}よ似^ニま^ハふ^ハ此^{コノ}物^{モノ}此^{コノ}寶^{ホウ}に
わ^ハる^ハや^ハれ^ハ皆^{ミナ}物^{モノ}よ^ハ金^{キン}ま^ハて^ハわ^ハて^ハ化^カと^ハふ^ハと^ハ此^{コノ}故^{コト}

なり金^{キン}を^ハふ^ハと^ハ卵^{ラン}乃^ノ石^{セキ}なる^ハと^ハ此^{コノ}と^ハう^ハじ^ハと^ハわ^ハる^ハ程^{ハジ}
氏^シ遺^イ書^{ショ}ふ^ハ裁^{サイ}波^ハ斯^シ回^{クワイ}乃^ノ人^{ニヒト}田^{テン}中^{チュウ}れ^ハ古^コ地^チ塚^{ソウ}と^ハわ^ハ此^{コノ}
一^{ヒト}小^コ棺^{クワン}乃^ノ心^{シン}と^ハく^ハく^ハ地^チて^ハあ^ハ心^{シン}れ^ハ石^{セキ}の^ハふ^ハく^ハに
か^ハつ^ハれ^ハ張^{チヤウ}ま^ハる^ハ張^{チヤウ}て^ハあ^ハ地^チれ^ハれ^ハ内^{ナイ}よ^ハ山^{サン}水^{スイ}れ
模^モ様^{ヨウ}わ^ハる^ハま^ハる^ハ張^{チヤウ}ゆ^ハて^ハ畫^エふ^ハく^ハく^ハま^ハる^ハか^ハく^ハま^ハる^ハふ^ハ
女^メう^ハそ^ハほ^ハひ^ハと^ハ欄^{ラン}こ^ハう^ハて^ハあ^ハめ^ハま^ハる^ハふ^ハ地^チわ^ハる^ハ
け^ハ女^メ好^{コウ}ふ^ハと^ハ地^チ者^{シャ}ふ^ハ山^{サン}あ^ハと^ハあ^ハす^ハふ^ハ癰^{オン}わ^ハる^ハと^ハ朝^{チヤウ}夕^{セキ}
意^イ然^ニは^ハま^ハる^ハ一^{ヒト}故^{コト}よ^ハ融^{ユウ}造^{ゾウ}て^ハか^ハる^ハこ^ハく^ハ宋^{ソウ}潜^{セン}溪^キ文^{ブン}
集^{シツ}に^ハ載^{サイ}臨^{リン}川^{セン}の^ハ信^{シン}法^{ホフ}循^{ジュン}と^ハふ^ハ者^{シャ}般^{ハン}舟^{シュ}三^{サン}昧^{マイ}れ^ハ法^{ホフ}紙^シ
りて^ハ死^シと^ハふ^ハ故^{コト}よ^ハ火^カ葬^{ソウ}れ^ハら^ハま^ハる^ハふ^ハと^ハ化^カせ^ハりて

廣雅釋義卷之五

作りしうきものふりまれのうきもの
やうにうきものふりまれのうきもの
すてゝそがうきものふりまれのうきもの
やうにうきものふりまれのうきもの
今集は正一巻紙いけふ
お女おんな 集は正一巻紙いけふ
きうきう人うきものふりまれのうきもの
うきものふりまれのうきもの
二枚と一事も集は正一巻紙いけふ

廣益俗説辨卷十五終

廣益俗説辨卷十六 人物補遺

公卿

補 小井宮實明賢人トヨシトシ

補 大江匡房道理非道乃知名

士庶

補 小條原時小条宗方ウキモノ

補 太田道灌子息と悼み秋乃説

補 大内義隆方角と忌説

婦女

補

小督局名言の說

補

白拍子微妙孝行の說

補

續後局の悲哭小條改村の女子と惱む說

補

棟棠花とてつて義方地とて一絶以女の說

廣益俗說卷十六

補遺

井澤長秀

輯録

此卷蒐輯遺漏編中者附録人物部之尾

以故與各條不次第見者勿訝

公卿

補

小督局實明賢人との説

修統云小督局右大臣實明若くしりおれらハ

身ふすくさるる文徳おきれハ何事にはまても

そ徳わくそれかううみよ賢人ときそ

名残ゆ人事残るハ秘るそれとてはるに廉潔

乃ゆかひしりおれらまかきとて人よりよさ

とか入いてわさけぬきくひおほーかふそふ
 わささく家成はくして移徒さしきふ家大所
 ちから大翠簾乃縁さうーとかつて消さうけと
 ちさー見終るる程なくもえつとそわけ
 ち代家人夢見のまてさうきふれと色制して
 けさ終終れさうーふ大ふありにまうと耐
 ちさうとぬて車させさうて出終るすう
 ち家財とぬ出さばさうねのけう賢者れ名
 わささく帝さうーめさうとれゆと感どて
 ちささくさうわさ人後ふさぬとるさうはわ

うおれさうーふ大れさうばふさもえわうふさ
 ちささくわさ天れさう次災さう人かともて
 ぬささくさう大さう獨いさうべーわがぐ地家一
 とけさうささうさうとささけるさ後事にな
 かさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ちささくさうさうさうさうさうさうさう
 今按さうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさう
 文武周孔の賢さうさうさうさうさう
 ちささくさうさうさうさうさうさう

さうば徳行あらうと地はわろくされとも聖賢と
稱^{トクニウ}も徳行^{トクニウ}あまれいてらふともまれう稱^{トクニウ}と人
ま^セん聖賢^セなりやまれいまきくともなま^セ事^セにわ
れ^セと又火葬^{ヒヤウ}れ火^ヒにれ^セる^セに^セつ^セる^セと^セれ^セま
ぬ^セや^セさう^セ一^セ垂^セる^セの^セあ^セる^セ一^セ火^セれ^セと^セえ^セわ
る^セ火^セ災^セなりと^セ統^セと^セけ^セさ^セハ^セ以^セて^セ大^セ方^セわ
さ^セひ^セわ^セん^セと^セえ^セれ^セ一^セと^セ又^セ水^セなり^セ敵^セ人^セよ^セ命^セ
一^セと^セえ^セ乃^セ及^セん^セま^セで^セ備^セ一^セめ^セさ^セゆ^セと^セあ^セく^セん^セ
天^セ災^セと^セも^セ一^セと^セ一^セあ^セん^セま^セや^セ備^セ人^セと^セも^セせ^セて^セ居^セけ
ゆ^セる^セ見^セゆ^セう^セも^セ統^セく^セさ^セう^セなり^セ又^セか^セく^セあ^セゆ^セる

ま^セひ^セま^セえ^セさ^セう^セま^セれ^セハ^セ流^セの^セ小^セ賢^セ人^セと^セい^セふ^セは
ま^セう^セと^セい^セふ^セハ^セ愚^セ人^セと^セや^セま^セは^セ統^セさ^セわ^セや^セま^セう^セ
ま^セれ^セと^セれ^セあ^セる^セ一^セ

補 大江匡房道理水道乃^子弘^子也^子況

保^子後^子云^子大^子江^子匡^子房^子中^子細^子云^子太^子宰^子校^子帥^子お^子た^子り^子て^子任^子ふ^子れ
と^子じ^子う^子統^子あ^子う^子け^子あ^子ま^子る^子理^子や^子て^子お^子う^子ま^子れ^子然^子ハ^子弘^子一^子艘^子
お^子ほ^子ふ^子那^子及^子あ^子く^子取^子う^子物^子然^子も^子同^子一^子艘^子の^子も^子て^子お^子わ
れ^子通^子け^子あ^子ふ^子る^子理^子乃^子弘^子と^子入^子海^子一^子水^子及^子れ^子弘^子と^子難^子あ^子く
然^子然^子多^子う^子に^子帥^子い^子し^子れ^子あ^子う^子ハ^子世^子と^子い^子ふ^子や^子季^子小^子成^子あ^子う^子
人^子正^子也^子たり^子ゆ^子ま^子と^子も^子悔^子也^子ける^子こ^子れ^子然^子と^子い^子ふ^子

を免るがつててうやうれ多うや

今樓蘭は既破る人因てあまひり東

漢の樂羊子金一餅と路ゆてむろいけて書い

くふあういしく志士ハ盜泉れ水とれふ人廉者ハ

暖來乃食残る系はいんやねらる残拾ひ色

せめてそねとけくもやとをちりーめあれハ羊

子とんつふあひて今残地よすてきうとそ

記又呂氏春秋小東方に士わり爰旌同とい残

おねくやて途中めて甚く飢よ及ひ人さうさ

かふとらん小狐父といきうられ丘といふ盗と

残るわう拾持る餐とおいてきうーむろ小

爰旌同といひ鋪て後人らうはとそかれ者

残るの事をそいふと同一といひ狐父乃丘なりと

答小案旌同大いりて故ハ盜なりゆんぞ残

み食とーむろや吾義死ととも汝の食残る

ゆ食うとそやあふ残地つとそて咄とそおハ暗

暗とて地は休とそは死とそわう志士乃

乃實ゆとれとー残るふたすてこそたうた

さひの匡房氏乃財産とびさかりおれ私よ積て

る理非道とらんみんや波して傳ふらわとま

つゝ

士庶

補 北條師時ホフニク小条宗方ホフニク悪妻アクメ害せし後サハ経
俗ヨク説セツ云クニ小條相模守貞時サカミノカミ剃髪サツガム後ノチ堀ホリ相模守サカミノカミ師
時モロトキ執権シツケンの連署レンシとはむむふと云ふトイフ徳治二年七
月ツキ一イチ日ニチ一イチ小条宗方ホフニク亡シノブ其ソノ時トキ師時モロトキ
小恨コミ成報セイホウと云ふトイフ一イチ人ヒトの聲コエ外ソノ人ヒトの耳ミミはき
くもモロトキ師時モロトキの耳ミミにニのノもモと云ふトイフ後ノチふフかカ他タとわ
くクかカもモのノもモと云ふトイフ師時モロトキのノ我ガ忌イミてテ新ニ待マと

いイきキ一イチ人ヒトの護摩モモ法ホウ候コトとトひヒふフと云ふトイフわワと云ふトイフ
一イチ人ヒトのノ後ノチと云ふトイフ身ミ心シンをを座ザにニしシてテ同ドウ九
月ツキ十日ニチ師時モロトキ一人ヒト亭テイ小座サしてシテ庭ニハとト見ミてテ病ヤミけ
あアと云ふトイフ宗方モロトキ悪妻アクメ長刀ナガタと云ふトイフ人ヒトのノ庭ニハと云ふトイフ一イチ人ヒトの
其ソノ時トキもモ太刀タチと云ふトイフ起タチ一イチ人ヒトの胸ムネにニわワと云ふトイフとト抑オシさ
せセと云ふトイフ一イチ人ヒトの地チ倒タタと云ふトイフ血チと云ふトイフ一イチ人ヒトのノ斗トと云ふトイフ
てテと云ふトイフ後ノチ入イルと云ふトイフ家カ内ナ上下ジョウわワと云ふトイフと云ふトイフと云ふトイフ
たタと云ふトイフ一イチ人ヒトのノ地チと云ふトイフと云ふトイフと云ふトイフ
と云ふトイフ一イチ人ヒトのノ暮クと云ふトイフと云ふトイフと云ふトイフ
今イマ先サキ儒ニョのノ説セツと云ふトイフと云ふトイフと云ふトイフ
今イマ先サキ儒ニョのノ説セツと云ふトイフと云ふトイフと云ふトイフ

彭生^{ハヤシ}死^シして齊襄王^{ハヤシ}は禍^ワせしむるに道理^{トウリ}の
中^{ナカ}の一^{ヒト}種^{シュ}れを理^リたり人^ニは此^{コノ}理^リと悟^{サトル}て生^{セム}しこれ
理^リふきこふて終^{ハハ}まは魂^{コン}のなり魄^{ハク}なる若^{モシ}し然^{シテ}
そらなり理^リいすはけさふよにいさ小孫^{オウニキ}嫡^{チキ}ふ
もて死^シふと化^ケさるゑ凝^{ヨウ}て解^{トケ}と憤^{イキミヲラフ}然^{シテ}と
そらとほま子^ユ祿^キ叔^キ人^ニ觸^ツ漂^{ヒロ}て執^{ツグヒコロ}教^{コウ}とさや
ふとわう是^{コノ}すかち鬼^キ神^{シン}乃^ハ変^{ヘン}めて常^{ジョウ}れ理^リ小
はわり古^コ戦^{セン}場^{バウ}乃^ハ如^ゴくおみりぬゆも八^{ハチ}陸^{リク}と陸^{リク}
さうしとも董^{チュウ}慈^ジして形^{カタ}と現^{ゲン}し聲^{セイ}と發^{ハツ}とわう
西^{サイ}戎^{ジュウ}湯^{トウ}と終^{ハハ}ると堯^{エウ}鼎^{テイ}とぬくみく死^シるが魂^{コン}魄^{ハク}教^{コウ}

わりふふは昨時ふ方と教して後彼非余に死
 せりそ重必讐と復とんくとおもふ疑を胸中お
 察て疾やわし一着のりわのこふ弟方う死聲と威
 一をけりむと人お眼とやあるもの至中に死と
 見ふといふもまれば死はわらふふと一考ふ
 補 右田道灌子息と悔れ終れ後
 信流云太田乃灌子息は移きて一周年忌より先か
 ううめく又をり北月日おわたりてこれらと
 ども人へる灌の先とてたまわらうとてこれをも今も
 走りておれはううおひおふ

今據ふより灌の子息はとけり後孫なり慕京
 集云持兼の妻三河よりけり子とけりふや
 とせうういふひやにつとめてりや一後のわきも
 いとあはれ孫のこのわきひよわひわきといひ
 あうまればいふ北月日の死もくく地とてあ
 なたをかきとけりしあれもいふつとてけり
 おけりくもさうとて北月日なわらうとてこの
 まふとひきて持兼妻とて一死をあらわし
 死をもいふとてわらうればとてあひてさめとわ
 考へ知ぬ

婦女

補 小督局名言此後

信託云小督局ハ賢女ナリ
いふ世やわや此と成かろふ此ハリ申しに
そ此多し一かろふ海より此は福よあし一あまれ
みおれハ方言万當とくくふあふとすして身成
まのりへ

今據あよ小督局ハ信婦ナリとく先次泉隆房

小通一後ハ肉よあされて帝此親小わのりか
かうた成隆房よわの事洋ハ隆房ハのり
記とる艶細小ハくまろ
此年家物語とく大ハ是なり
好年ハ者これと考ふ魚一
くかろふれ

補 白拍子微少春のり後

信託云源於家比企判官能負ハ宅おゆり進ニ来ハに
系教よりト向より白拍子微少とくふとれ出まろや
二十とらに客教屋とく教声とくくしとる能
負ハ白拍子ハ終所ハ事わのりてとる信及是ハ微少

蓮ニ尼ニとらふ

今按おに敬ぶる父と慕ふ志をもつともわれ
 ひくくとも孝とするふあうとも敬いんと
 あれ孔子曰修身慎行恐辱先也と人なみと
 してハ一言一行の非もその親と辱しうんと
 然れども孝とてくはれ父のゆくをせよと
 うるなりとて自損子とおれおれ名残汚し
 縁とて大よ父母とてしめしめたり若言
 かれわれも父母と慕ふるるるるるる
 千丈此提も懐懐か元よりくあくとやん

いふやうに世もさうかへていふに是のいふに先
ぬくさうしてゆくさうなうたり

補

薩波局の悪女水糸改村の女子と云ふは

信託云文應元年十月十八日水糸相模守改村の女子

と云ふに其の口よりいふに是は比企の

能負うと云ふ薩波局なりと云ふに其の口よりいふに大蛇

たり比企若此池より先をけりてさうに其の口よりいふに

と云ふ改村の女子と云ふは信託云改村の女子と云ふは

先改村の女子と云ふは信託云改村の女子と云ふは

今按ずるに其の口よりいふに其の口よりいふに

と云ふに鬼神と云ふは人なりと云ふに其の口よりいふに

鬼神と云ふは鬼神と云ふは鬼神と云ふは鬼神と云ふは

故なりと云ふは故なりと云ふは故なりと云ふは故なりと云ふは

と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは

信託云と云ふは信託云と云ふは信託云と云ふは信託云と云ふは

くつと云ふはくつと云ふはくつと云ふはくつと云ふはくつと云ふは

と云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふはと云ふは

りつと云ふはりつと云ふはりつと云ふはりつと云ふはりつと云ふは

なりてと云ふはなりてと云ふはなりてと云ふはなりてと云ふはなりてと云ふは

中なりと云ふは中なりと云ふは中なりと云ふは中なりと云ふは中なりと云ふは

せをいハたり肯漢乃李夫人死してそ是武
 帝ふそ人ゆ 白氏文集東坡集及小書 うれふりく
 武帝詩とはくて是耶非耶立而望之偏娜々
 何丹々来達也賊なり 白氏文集小書 後人李氏乃
 人奸譎邪妖をふ教ふかくれくやそくきり
 況や漢成局已く不生の一情君 白氏文集小書 父老能負及
 一族しくそ小條のみ教ふれ憂憤し死てふ
 そ悲恨乃氣凝て教ふ次政村の女子いつく
 かんふれそ大蛇は再生しうとら六病中の
 譎語めてふれそ俗なり又美鬼佛経ふめてさ

一やふたはそ人へ一平素佛経はふれと地
 まれたるそふねそ経る声小感てそそ
 所乃氣教しそ教なり 李三ウ美爆枝はふれそ
 そ人ふそそ精神をわめて誠ふそそ地と
 ち地中らに威わり風俗通は教鮑君神李君
 神韓文は載木居士乃類なりふれそ邪を排
 こそ心提ふ論并取舍をゆふめてハ妄昧を
 眼名者のううひふそそふわらむ
 棟棠花とふめて葦な地と一光そ女う後
 俗説云太田道灌将ふゆれふそと地中ふて

西よわひ云民の家おまゝなりて、^ミ兼てかゝせうせう
 小賤女を人わりけぬり何とてふてもおかくて辱まふこ
 一ふておまゝなりちち道薩の^ミ前よまゝなりて、^ハれお
 七重八重花をさげともやまぬなりて、^ハれお
 たりておまゝなりて、^ハれお
 えまゝなりて、^ハれお

今接ふ小後拾遺集云小倉の家より人作の
 家おれは^ハれおなりて、^ハれお
 や、^ハれお
 たりて又名目やまゝなりて、^ハれお

いひおれて、^ハれお
 まゝなりて、^ハれお
 そわや、^ハれお
 兼明親王の御成おれな居て、^ハれお
 小倉の考あゝ、^ハれお
 院は^ハれお
 乃かゝるふれとまゝなりて、^ハれお
 衣を^ハれお
 乃乃^ハれお
 せけぬ、^ハれお

囚獄ヒリヤといれとてきけんくわんひてしと聲を
みきりと何れやまゝ死をり化せし如きとれ法ホウニ昨
にねがしこれゆふひとねがひやあゝねがひこれ
ありふへんかこゝろききとて

廣益俗說辨卷十六終

廣益俗說辨卷十七目錄

近世

近者コシ勅トウ之カキキ允リキ敵討リの說

篠井半十郎敵討サの說

わる者モノ他ヒトの罪ツミと我身ワカミの負シ說

何れ人ヒト後コト士シ乃ニ出奔シツホシせふとそれ子コと遣ツカしてたは孫

名ナひあ説

名ナ姓セイなりと母ハハとふあ説

わる人ヒト軍シ学カク者カ者カ紙シ評ヒヤウとあ説

塚ツカ本ホン源ゲン四郎シロウ父チチの敵テキと付ツキとあ説

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

廣益信託判卷十七

井澤長秀

輯錄

近世

近世幼く元敵討つ

信託云中よりあるが國の領主なる人近世幼く

萩田伊豆^{ヲキ}と云ふ者^{トニ}信託云及人伊豆^{トニ}幼く

付て之れを指津國小作して各代森脇^{モリノキ}自宗^{カニ}

わくも免^ケ級^ニ指津^シ指南^{ナシ}して後世と幼くある

と云ふ敵^{カニ}と云ふ人^{カニ}を指津^シと云ふ人^{カニ}と云ふ

人^{カニ}と云ふ人^{カニ}と云ふ人^{カニ}と云ふ人^{カニ}と云ふ

自宗^{カニ}と云ふ人^{カニ}と云ふ人^{カニ}と云ふ人^{カニ}と云ふ

幼く元がさうに代りおれと看病カニヘラ一敷月おきて
 金一と此幼く元自來よびつて基シカシとこれに
 うれとを最幼な事つる幼く元とつるものなり
 父のわが後さんおけ國よ来る下人とをいへう
 かなと病よさうとさうも其方スキさかへうとより
 病よさうとみ入るさうとけくして看病カニヘラ一
 候キ氣つたとき化たまうといふ事さうとに
 さんといふは自來よ此候さういふ事さうとに
 の事さうと双方ムフタウのとぬまりらうとくも何れも
 あり自來候とさひさんりらうとさうとさうとわ

ま方コウれ孝コウ行コウのさうとさうと今度の病中おが
 とけくして看病さうれ一息フシと感カンとさうと向テムカヒ一
 候カニ一討ウツておとさうとさうと首コビとさうとけくも
 幼く元わさうとさうとさうとさうとけくも
 侍サマ候カニ討ウツておとさうとさうとさうとけくも
 さうとさうとさうとさうとさうとさうとけくも
 令コト候カニ討ウツておとさうとさうとさうとけくも
 其ソノさうとさうとさうとさうとさうとさうとけくも
 かりとさうと

今按テキるよ幼く元と敵テキとさうとさうと敵テキとさうと

藤井才十郎 敵討の魂

[illegible]

ふこころの心持もかきりて武士よわらば
かゝる佛折同前のお家とあまを切きぬされ
ほみおとゆへにされも父の敵討おれ刑罰おた
とふしれを殺すおとろ死罪残免澤して國事を
追殺とて一やとて四境をわし事ゆとあり

今按うお中十郎初う死父残うう場を敵とて
やとて数年半昔してをゆへ敵をわしとて
而残免とてお敵のこころわきとて提督年が
なりと各案とて中十郎の孝公天に通さる敵討
敵の胸中にさして託宣して終るやとていふ

武運おかあふ中十郎但一敵を袖おれいふ
とき各とていふれ終るもさういふ虎狼は親と
されんよかきハ畜生おとろは討たれとてゆ
さんや昔漢の蘇不韋といふ者同隸校尉李嵩
とて終して父の仇を殺じおびとて残免の終る
かかるといふ敵も高の妻に其小兒を殺さう
父事うけう残かりていふうい士を殺す蘇不韋
お残る一子郭林宗とて残倫して蘇不韋を
やういふおとろ残たれとて蘇不韋を
ゆへ一伍子胥よ比とて終るもさういふとていふ

らまふらうてやうにまふれもまふれとぬとふらふら
わふれむいふむらうあは婦女小児とて極一と
かとほつあふとと義者つとゆふふふふふ
まふふふふふと極つとゆふふふふふ
まふふふふふと及つとゆふふふふふ
う敷むらうとゆふふふふふふふふふ
封金とゆふふふふふふふふふふふ
みふふふふふふふふふふふふふふふ
理ふふふふふふふふふふふふふふふ
腹痛ふふふふふふふふふふふふふふ

夫一藤井とて若う終る考ふふふふ通一
まふれ感一武運の冥加と極ふふふふふ
とふふふふふと追放とてふふふふふ
わふ者他の罪状秋身とて極
極極ふふふふふふふふふふふふふふ
一人の小童とて月傭とてふふふふふ
一人の甚七弟とて家富とて極ふふふふ
甚七弟の家とて大とて極ふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふ二人も者状吟味とてふふふふ

かゝるかゝる代無^レ事^ハ身^ヲてゐる大かゝる
遠なり

うろ人ウロシ從士ニッホシの
出奔とふと其子と違ツグして尋タツね

一
口
免

俗説云、中比わが親人なる者來罪科ありてさうに
る。さうよきとゆへ——はかのをれ出奔して千迄
めくも居らう。主君科人なり近習よりはと免る
とせり。しかうつ未汝^{ミチ}父祖^{カキ}ありていさうこそ
次汝といふ海うそを執る尋杯出して來家へ」と
し。これされ来連ハか——とす。作とて父のめられ

わうまゝとて見せしむる母なりかろふといふ
 めもしてあやうきと思案とせしむるせん
 こねけしは他物よりきて盗人なる者然に
 わるゝ人より秋よりかきとれとせしむる
 といふ刀をぬいてあやうきに附居る番人といふ
 ちうひ母うくの状をみせしむる追ひしむる
 番人といふえりて盗人といふて見せしむる
 かきとれとせしむる刑にせしむるといふ首を
 して誰といふとせしむるかひの士は母うくの
 うやむしといふ人う方にゆいて首を切られしむる

母のくひとて見せしむる母なりかろふといふ
 身とて見せしむる君小はるる母なりかろふ
 ちうひ出ぬて母の後世といふてせしむる
 主君とて見せしむる不孝なりとせしむる
 土地とて見せしむる首切切てせしむる
 けしむるさう器量一のはねとせしむる
 兵とて見せしむる仕官といふてせしむる
 士とて見せしむる一とせしむる

今按ふといふ士う不孝言語ふといふ
 其教の昔宋の徽州の鮑壽孫といふ人父賊

奉公と云ふはけり。彼侯王公と云ふは、
一、北近習れ者いふくそれ。けり。軍學者
電は尋ね候はれ。火伏焼て居候ぬ。り
り。系て見候へ。のは候。り。焼候。り。
大分。薪とほわ。一。候。り。候。り。
ハ軍學者も。そと。ま。れ。り。と。抱へ。り。
り。けり。

今按ふ。これ。理と。わ。た。す。り。候。り。
世より。候。り。事。一。人。と。今。候。り。
もの。一。候。り。彼。失。り。り。候。り。候。り。

わ。り。あ。り。ハ。階。侯。乃。殊。ハ。實。れ。と。毛。雀。と。候。り。
泥。丸。ふ。一。か。と。模。郷。り。銀。ハ。利。と。り。と。毛。雀。候。り。
候。り。と。虎。象。あ。り。一。や。り。り。り。り。
猫。り。一。候。り。り。り。り。り。り。り。り。
驚。り。り。り。り。一。其。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。一。り。車。と。り。り。り。り。
小。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
候。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
へ。り。り。り。

場。原。源。日。帝。父。り。敵。と。討。り。候。り。

信託之中とありつゝ西より諸侯の家人赤星平
 為傍家塚系源氏と討て逐電と源氏を討つ子
 源氏部敵とて争ひて戦ひ主君は苦てうちおん
 中へおこつゝ主君は化回へ使者とつゞきとて是
 非ありき地を移ぬおふ途中めて不の者となり此
 おのちて縁人落るゝて縁入より某よりおのちよ
 ろる源氏部より地より見ふは父の敵平親ありき
 主君も君令はうて姓といひ跡を死人同おたる者
 としつゝ某の理かゝとてひ某氏よりおのちへ市此者
 おのちえけ某と別ひ心氣つゝを見と人へおのちへ通

ろ怖とある一通りふふり平親某氏の心とある
 たりかた怖れ被見源氏部よりおのちとて感
 宿不よりとて陳謝源氏部より墓の前めて切
 腹とあるは源氏部よりとてとて首級石塔お
 そあるえけ西國中にありて源氏部より敵と討つた
 うらきあるより中とあるは感とあるはなりとて
 今按ふは源氏部父とてこれとて此を日より
 秘らふ金とて後をたはうとてはとめおのちと
 まれおたり又後とてとて戦えわひぬきとて
 使者お移とて姓といひ死とてとてのおのちとて

うる金さる獲はしそくさうも何人懐然也
 ちやうやくりーとちやまうかり某然也中留る
 舞く中地て正報のちもさう然るんそくさう
 かりー後使と遅滞ーちやまうそくさう
 せう何ちやま親のちも先の身と惜ひんそくさう
 ちやまゆ然然のちもさう首然然ひて眼赤の
 敵然然せーはいと口さう又けしうさうさう
 己のちやまもさう然るさうちやまさうとちやま
 して敵の腹さうさう然るちやまけの死首さう
 ちやまさうさうさう敵さうさうさうさうさう

ちやまさう感せーはいとさう國さうさう然る
 ちやまさう味の風さうさう

俗さうさうさう然るさうさう此然る
 ちやまさうさうさうさう然るさうさう然る
 ちやまのちやまの然るさうさう



